



共同サステナビリティ研究専攻 (博士課程後期)

三大学の専門分野を活かし地球規模の課題の解決に貢献できる博士人材を育成

設置の趣旨・必要性

- 国際社会における日本の取り組みの不足 : SDGsの達成状況、国際機関における人的貢献など
- 国際社会が抱えるさまざまな課題 : 貧困、紛争、医療・福祉・健康、食料・資源、エネルギー・環境、情報・ICTなど
- 企業から求められる教育・人材 : 理論に加えて、実社会とのつながりを意識した教育、チームを組んで特定の課題に取り組む経験、分野横断型の発想で様々な課題を解決できる人材

共同サステナビリティ研究専攻の特色

- これまでの三大学による様々な連携事業の実績を基に人材養成を展開
- 西東京エリアの近接地における実質的・効果的な教育の展開
- 文理各分野における卓越・ユニークな大学の協働により、国内外で活躍する強い人材を養成
- 複合新領域の研究の推進

募集定員 (11名)

東京外国語大学 Tokyo University of Foreign Studies	3名
国立大学法人 東京農工大学	4名
電気通信大学 The University of Electro-Communications	4名

養成する人材像

自身の専門性に軸足を置き、その専門的な観点から人類の未来の持続的発展のために、グローバル化社会の抱える地球規模の課題を分野横断的な問題として捉え、他分野の研究成果を取り入れることによって **イノベーションを生み出すことができる学際的、越境的な実務人材**を養成

協働による人材養成を展開

東京外国語大学の強み

世界の言語とそれを基盤とする文化一般を、理論と実践により研究教育し、現代世界が抱える様々な課題をグローバルな視点から解決する能力を備えた国際職業人を育成

東京農工大学の強み

農学、工学及びその融合領域において、高度な研究能力を備えながら、国際社会で指導的な役割を担うことのできる対話力・対応力を有する国際理系イノベーション人材を育成

電気通信大学の強み

情報学分野、情報通信分野、ロボット制御分野、光学分野において、グローバルな視野とイノベティブな高度専門技術者の育成

学位

Doctor of Philosophy
博士(学術)

カリキュラムの特徴

三大学の教育研究資源を効果的に活用し、国際連合の「持続可能な開発目標SDGs」の概念や視座を実践的に具体化することで、体系的かつ柔軟性のある**文理協働型教育課程**を提供

- 普遍的かつ実践的学識を基盤とする国際感覚及び国際通用性のある**実践的理論・技法**の修得
- 高度な専門性の修得及び多様な価値観・社会環境に対応できる**適用力**と調整できる**合意形成力**の醸成
- 「理解」、「分析」、「実装」という3相(アспект)から成る包括的教育により、国際通用性のある**論理的思考力**と**機能的伝達力**を向上
- 三大学の教育研究資源を十分に協働活用した**トリプレット体制**による相互補完強化的な教育研究を実施
- ワークショップ、文理協働コロキウム、インターンシップなどの多元的な協働作業による**実践的アクティブラーニング**の幅広い導入